

製品名: PDK1 (リン酸化Tyr9) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05235**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PDPK1
別名	PDPK1; PDK1; 3-phosphoinositide-dependent protein kinase 1; hPDK1
遺伝子 ID	5170.0
SwissProt ID	O15530
免疫原	抗血清は、ヒト PDK1 の Tyr9 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

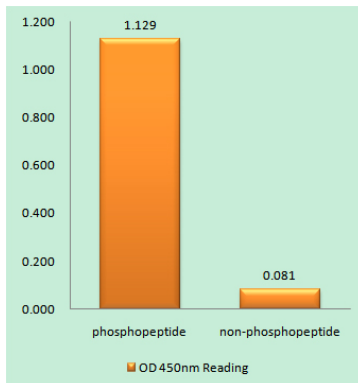
背景触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: PKB/AKT だけでなく、PKA、PKC- ζ 、RPS6KA1、RPS6KB1 もリン

酸化して活性化します。シグナル伝達プロセスおよび発達において一般的な役割を果たす可能性があります (類似性による)。アイソフォーム 3 は触媒的に不活性です。PTM: チロシンおよびセリン/スレオニンがリン酸化されています。活性化ループの Ser-241 のリン酸化は、完全な活性に必要です。PDK1 自体は Ser-241 を自己リン酸化して、自身を活性化することができます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PDK1 サブファミリー。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 細胞刺激後に膜に会合し、転座を引き起こす。チロシンリン酸化は細胞膜でのみ起こると思われる。サブユニット: TUSC4 と相互作用する。組織特異性: 遍在的に発現していると思われる。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: PKB/AKT だけでなく、PKA、PKC- ζ 、RPS6KA1、および RPS6KB1 もリン酸化して活性化する。シグナル伝達プロセスおよび発生において一般的な役割を果たす可能性がある (類似性による)。アイソフォーム 3 は触媒的に不活性である。PTM: チロシンおよびセリン/スレオニンがリン酸化される。PDK1 自体は Ser-241 を自己リン酸化することができ、それにより PDK1 自身も活性化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PDK1 サブファミリー。類似性: 1 つの PH ドメインを含む。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 細胞刺激後に膜に会合し、転座する。チロシンリン酸化は細胞膜でのみ起こると考えられる。サブユニット: TUSC4 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現していると思われる。

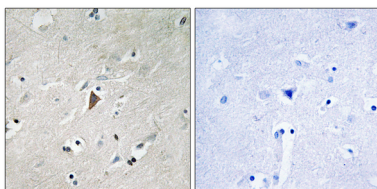
研究分野

Akt_PKB、PPAR、mTOR、接着斑、インスリン受容体、アルドステロン調節性ナトリウム再吸収、子宮内膜がん、前立腺がん、非小細胞肺癌。

画像データ



PDK1 (リン酸化 Tyr9) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PDK1 (リン酸化 Tyr9) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。